



柴田安彦
無会派

住み慣れた自宅に
暮らし続けるために

問 高齢者が希望すれば、在宅看取りができる支援体制を整備する必要があると考える。地域包括ケアは介護保険事業が担うことになっているが、実際に推進するのは市か。

答 市は、介護保険事業を東三河広域連合で運営している。東三河全体の課題は広域連合が事業を実施し、各市町村特有の課題は、それぞれが広域連合から事業委託を受け、実情に合った事業を実施している。

問 第9期高齢者福祉計画の在宅医療・介護連携における評価指標の進捗はどうか。

答 在宅医療提供患者実人数は2020年7月から21年6月までの実人数が389人。



訪問看護（介護保険事業分）年間受給者件数は2020年度実績で1771件。

問 介護保険では要介護度3から5におむつ支援があるが、豊川市ではより広い範囲で独自の支援制度をつくっている。介護度が高くなってもおむつは必要なので、本市も支援制度を作っているか。

答 おむつ支援は、東三河広域連合で統一実施している事業で、本市は、介護保険制度の枠内で事業を行うことを考えている。独自事業として実施する必要性については、各自自治体の考えがあるので、現状把握から進めたい。



牧野泰広
自由クラブ

これからの市民病院
の在り方について

問 2月15日に自衛隊と市による共同防災訓練が実施され、市民病院も参加した。感想を伺う。

答 南海トラフ地震を想定した大変大がかりなものであり、患者搬送だけでなく、医薬品等の物資の確保も含めて、災害時に港から近い当院が拠点施設として果たす役割がいかに多いかを再確認した。

問 県からの災害拠点病院の指定を受ける可能性、見通しを伺う。

答 県からは、指定の可否は現段階では未定であるが、まずは地域の理解を得ることが必要であるとの助言を受けた。今後、東三河南部医療圏における3か所の災害拠点病院に説明に伺い、また市医師



市民病院



新実祥悟
市政クラブ

次期最終処分場
について

問 整備の進め方、整備候補地や施設整備の内容は。

答 一色不燃物最終処分場隣接地を最終候補地とした。施設規模や配置、主要設備の構造等の概要を整理しており、今後は地質調査の実施や施設整備基本計画の策定等を順次進め、埋立地の最適な配置や施設規模、詳細な施設整備の内容や運営方法等を決定していきたい。

問 施設や敷地の利用状況はどうか。

答 改修工事で縮小され必要なくなった施設の跡地等の余剰地が存在している。また、多目的広場は周辺住民に利用されている。

問 敷地内の余剰地を使い、平時にも災害時にも利用できる施設を併設できないか。

答 清幸園衛生処理場は幸田町地内に位置し、土地は蒲郡市幸田町衛生組合の所有である。すぐに災害対応施設を併設することは難しいが、今後の避難所の適正配置を図る中で、広域的な支援・受援の視点を含めて検討する必要があると考えている。

清幸園衛生処理場の
複合利用について



清幸園衛生処理場